

O-107 熊本県秩父帯（黒瀬川帯）下部白亜系

高橋 努（八千代 E. (株)）・田中 均（熊大・教育）・

利光誠一（産業技術総合研究所）・宮本隆実（広島大・理）

Lower Cretaceous system in the Chichibu terrane (Kurosegawa belt),

Kumamoto Prefecture

Hitoshi TANAKA (Kumamoto Univ.) , Tsutomu TAKAHASHI (Yachiyo En.Co.,Ltd.) ,Seiichi TOSHIMITSU (AIST) and Takami MIYAMOTO (Hiroshima Univ.)

熊本県の秩父帯（黒瀬川帯）に位置する八代山地およびその周辺地域には、下部白亜系堆積岩類が広く分布している。この下部白亜系については、松本・勘米良(1964)による詳しい報告があり、下位より海浦層、川口層、八竜山層、日奈久層、八代層および砥用層に区分され、四国の物部川層群に対比されていた。その後、田代・池田(1987)は、八代山地を再調査した結果、当地の下部白亜系が四国の物部川層群に対比される地層群とそれとは岩相および化石相が異なる先外和泉層群（袈裟堂層および八代層）とに識別されることを明らかにした。最近、田中ほか(1998)は川口層や八竜山層が袈裟堂層の下位に連続する地質体であることを明らかにし、先外和泉層群は下位より川口層・八竜山層・袈裟堂層および八代層に4累層に区分されるとともに東陽村小原集落付近の物部川層群相当層は小原層・三峰山層・日奈久層の3累層に区分されたとした。

この度、宮地帯と日奈久帯の下部白亜系の分布域の調査がほぼ終了し、それらの岩相層序と産出化石（中九州層群＝テチス型動物群；物部川層群相当層＝テチス北方型動物群）を検討した結果、層序区分を次のように取りまとめた。

（白杵-八代構造線）

【宮地帯】	中九州層群	物部川層群相当層
・八代層（前期アルビアン後期）		・砥用層〔日奈久層〕（後期アプチアン～前期アルビアン）
		・宮地層（アプチアン）

（猫谷構造線）

【日奈久帯】	中九州層群	物部川層群相当層
・今泉層上部層（前期アルビアン）		・東陽層上部層（後期アプチアン～前期アルビアン）
・今泉層下部層（アプチアン）		・東陽層下部層（アプチアン）
・袈裟堂層（後期バレミアン～アプチアン）		・三峰山層（バレミアン）
・八竜山層（バレミアン）		・小原層（オーテリビアン）
・川口層（バランギニアン～オーテリビアン）		

（深水構造線）

従来の層序区分の日奈久層という累相名は、現在の地帯構造区分において日奈久帯と宮地帯に分布する泥質岩卓越層に対して用いられている。日奈久帯の泥質岩卓越層は層序学および古生物学的検討結果、中九州層群を構成する最上部の地質体であることが明らかになり、それを今泉層という新名称を与える。従来の日奈久層は、宮地帯の四国の物部川層群日比原上部層に対比される泥質岩優勢層に対して用いることとし、それは日奈久海岸より西方の御立岬海岸まで分布する。また、宮地帯の東部には日奈久層とほぼ同じ時代の堆積物として砥用層が分布することになる。一方、日奈久帯の小原集落付近には四国の物部川層群日比原層に対比される地質体が存在し、それを東陽層と命名した。

宮地帯の物部川層群相当層は、宮地層（アプチアン）、日奈久層（＝砥用層）（後期アプチアン～前期アルビアン）に区分され、それらは日奈久帯の東陽層下部層および同層上部層にそれぞれ対比される。